

地方自治体におけるISO環境監査と家庭版ISO — “私” の家庭マネジメントに向けて—

石 井 薫

はじめに

- 1 地方自治体におけるISO14001の導入
- 2 地方自治体における家庭版ISO
- 3 “私” の家庭マネジメント - 家庭版ISOの限界を超えて -
 - (1) “私” の家庭マネジメントの実践
 - (2) 家庭版スーパーISO

結びに

はじめに

地方自治体では、1998年1月に千葉県白井町が全国で最初にISO14001の認証を取得し、同年中に、上越市、大分県日田市等が相次いで認証を取得した。1999年に入ってから、大分県、板橋区、埼玉県、大阪府、水俣市、金ヶ崎町などが続いて認証を取得した(石井、1999参照)。私は、これらの自治体の他、園部町、海山町、岐阜県など(石井、2000A参照)さらに仙台市、江市、福井市、総和町、大阪市、浜松市、清水市、横須賀市、伊勢市、輪之内町、松任市、岩手県、平塚市、三重県、東金市、春日井市、古河市、羽島市などを取りあげるとともに、地方自治体におけるISO14001導入の問題点と今後の課題について論述した(石井、2001B参照)。

そこで本稿では、その後の地方自治体におけるISO14001の認証取得状況についてみてみよう。次いで、自治体における注目すべき取り組みとして、家庭版ISOについて取りあげるとともに、その限界を克服するために、“私” の家庭マネジメントの実践法や家庭版スーパーISOの自己診断チェックリストを提示しよう。

1 地方自治体におけるISO14001の導入

(1) 青森県

青森県は、2000年4月4日に認証取得宣言し、2001年3月16日に認証取得した(審査登録機関は日本品質保証機構: JQA)。同県の環境方針は、「青森県環境基本構想」に掲げる基本目標をベースにした基本理念及び重点的に取り組むべき項目を掲げた基本方針で構成される。著しい環境

側面として、電力・重油・灯油・都市ガスの消費、水道水等用水の消費、公用による自動車等の燃料の消費、物品の購入等、一般廃棄物の排出、フロン類を使用する機器の設置等、公共工事、環境保全施策実行計画に掲げる施策が挙げられている。

青森県における認証取得の意義は、自律的な取組みの推進（事務・事業に係わる環境負荷低減の率先実行）環境保全の推進（既存計画の具体化、環境配慮の徹底）ノウハウの蓄積（事業者、市町村に対する適切な支援）行政コストの削減（エネルギーや用紙の節減）にあるとされる。そして今後の取組みとして、環境方針の実現のために、職員の環境に対する意識の向上を図り、庁内の連携を一層密にして、継続的なシステムの改善に努めるとともに、この認証取得を県の取組みだけに終わらせることなく、県下の市町村、事業者等に波及させ、資源循環型の地域社会の構築を目指す、としている（青森県のISO14001関連内部資料参照）。

(2) 長野県

長野県は、2000年4月から環境管理システムの構築を目指し、2001年2月7日に認証取得した（審査登録機関は日本品質保証機構：JQA）。長野県の認証取得の目的は、自らの環境保全活動の一層の推進 環境保全のリーダーとしての県の姿勢の明確化 県内の事業者や自治体の環境配慮の促進、にある。そして同県の環境方針の下、構築した環境管理システムの特徴は、日常業務活動における省資源・省エネといった活動にとどまらず、県の本来の役割である環境施策や公共事業における環境に関する取り組みを着実に推進し、平成13年2月に改定した新しい環境基本計画に基づく環境施策を推進するための仕組みとして活用し、全職員に環境研修を実施し、全庁的な環境意識の向上を目指すことであるとしている。なお同県では、取得にあたっての予算総額は約680万円（内審査登録費270万円）で、コンサルタントに業務を委託していないという（長野県のISO14001関連内部資料参照）。

(3) 兵庫県

兵庫県は、1999年1月に認証取得宣言し、2000年10月12日に認証取得した（審査登録機関は、(株)日本検査キューエイ：JICQA）。同県がISO14001を認証取得することの意義は、先導的役割 環境負荷の少ない県庁組織の実現 波及効果 ISO取得後のノウハウの還元 職員の意識の向上 財政的效果、にあるとされている。

同県の環境方針の下、構築した環境マネジメントシステムの特徴は、事業について環境負荷のみでなく、環境改善効果についても積極的に評価を行う 公共工事については工事実施時の環境対策のみでなく、計画段階からの環境配慮を行う。また、単に配慮事項を示すだけでなく、具体的な配慮度合いの評価システムを構築する 環境目標を達成するためのマネジメントプログラムの実施状況について四半期単位で進行管理を行い、環境目標の達成を目指す 全職員に環境教育を

実施し、また、庁舎内のテナント及び庁舎内で業務を行っている委託業者にも環境配慮の取り組み要請を行うなど、全庁的な環境意識の向上を目指す。本庁舎のみでなく、既に、環境負荷や規模が異なる公害研究所及び工業技術センターにおいてもISO14001を認証取得しているため、構築した環境マネジメントシステムに関する情報を公開することにより、県内市町、外郭団体及び様々な業態の事業者の認証取得を積極的に支援することができる、ことであるとしている（兵庫県のISO14001関連内部資料参照）。

(4) 大館市

大館市は、1999年3月に認証取得宣言し、2000年8月24日に認証取得した（審査登録機関はベターリビング）。同市の認証取得までの費用については、平成11年度（7月～3月）1,113,203円、平成12年度1,901,942円（審査登録費417,000円を含む）であった。同市の環境方針では、基本方針として「環境に配慮した街づくりの推進」「省資源・省エネ・リサイクルの推進」「法規制等の遵守」「組織の整備」「環境方針の公開、を掲げている（大館市のISO14001関連内部資料参照、<http://www.city.odate.akita.jp/>）。

(5) 会津若松市

会津若松市は、2001年2月9日にISO14001を認証取得した。同市では認証取得による効果として「行政サービスの向上とコスト削減」「環境都市としてのイメージアップ」「グリーン調達への貢献」「市内事業所などへの先導的役割」「会津若松市環境基本計画の更なる推進、を挙げている。認証取得後に係わる主な経費としては、平成12年度実績で3,163,125円（審査登録費1,875,300円を含む）、平成13年度予算で1,326,150円（年間登録維持料63,000円、定期審査費528,150円を含む）となっている。同市では環境方針で「土・水・緑そして人、共創するまち、あいづわかまつ」の実現をめざしているが、後述するように家庭版ISO、学校版ISOの取り組みも見られる（会津若松市のISO14001関連内部資料、『あいづわかまつ市政だより』2001年6月1日参照）。

(6) 館林市

館林市は、2000年4月25日に市長が取得表明し、2001年2月9日にISO14001を認証取得した（審査登録機関は日本品質保証機構：JQA）。省エネ・省資源や本庁舎のみを対象としている自治体が多いなか、同市は、プラス効果のある環境保全事業や各種施設も含めて取得したことで自治体としての特色を100%発揮できる、としている。また取得によるメリットとして「地球環境を改善・保全する効果」「市民や事業者を牽引する効果」「公園文化都市としての館林市をPRしイメージアップする効果」「職員への意識高揚効果」「省エネ・省資源による経費節減効果など、を挙げている。同市ではコンサルタントへの委託はしておらず、認証取得に係わる経費は、平成12

年度決算額4,177,000円(内認証取得審査等手数料2,378,000円を含む)である。

同市の環境方針では、基本方針として「空と大地と人の共生環境都市～いつまでも星が輝き、メダカが泳ぐまち～」を実現するため、環境にやさしいまちづくりの推進(安心して暮らせるまち、自然と水辺の美しいまち、思いやりと潤いのあるまち、資源を大切に使うまち) 環境に配慮した事務・事業の推進 継続的な環境改善 法規制などの遵守 目的・目標及び見直し 職員への周知及び実行 開かれた市政、に取り組むとしている(館林市のISO14001関連内部資料参照)。

(7) 高崎市

高崎市は、2000年5月2日に市長が認証取得宣言し、2001年2月28日に認証取得した(審査登録機関は ベターリビング)。同市では、審査登録機関による評価として、「エコオフィス活動としての省エネルギー、紙の節減、ごみの分別廃棄、公用車の燃料節減等に始まり、公共工事にともなう再生資源の利用・廃棄物のリサイクル、また、姉妹都市を中心とした地域間での国際協力による環境問題への取組みや、緑化計画、公共下水道の整備、環境啓発活動、公害関係届け出事務、処理場建設による汚水処理等の環境施策が、多数環境目的・目標に取り込まれていること」を挙げている。認証取得に係わる経費としては、コンサルタント料約400万円(富士通総研)だが、審査登録費は入札により約20万円という異例の低額であった。

同市は環境方針で「環境と人が共生するまち、たかさき」の確立を目指し、高崎市制100周年記念事業「高崎2000年環境会議」報告書や、「環境関係例規集」を作成している(高崎市のISO14001関連内部資料等参照)。

(8) 逗子市

逗子市は、2000年4月4日に、市長が認証取得宣言し、2001年2月28日に認証取得した(審査登録機関は ベターリビング)。同市の環境マネジメントシステムの特徴として、認証取得の範囲を事務所だけでなく、環境負荷が大きいと考えられる清掃工場、し尿処理場及び下水処理場並びに消防本部・署を対象として幅広く一括取得した マネジメントする内容として、環境に負荷を与えるものだけでなく、環境の保全・創造に寄与する施策・事業の推進を含んだ 行財政改革の趣旨を鑑み、特別な部局を作ることなく従来の機構で対応した 市長の取得宣言(4月)から11ヶ月という短期間で取得した、ことが挙げられている。認証取得に係る経費としては、コンサルタント(日本鋼管テクノサービス㈱)への委託料4,830,000円、審査登録費1,330,035円となっている。

同市では環境方針で、都市宣言「青い海とみどり豊かな平和都市」の下、「地球にやさしい循環型のまち、自然と共生するまち、各自が主体で良好な環境づくりを進めるまち」を目指して取り組むとしている(逗子市のISO14001関連内部資料参照)。

(9) 小諸市

小諸市は、1999年4月1日に、市長が認証取得宣言し、2000年3月24日に認証取得した（審査登録機関は日本品質保証機構：JQA）。認証取得に係わる経費は約362万円で、審査登録費は190万円とされる。同市の環境方針では「高原に育む活力ある詩情公園都市・小諸」を目指し、基本方針として 環境関連施策の推進 事業活動における環境への配慮 環境保全の普及及び啓発 環境に対する体制の充実、を図るとしている（小諸市のISO14001関連内部資料参照）。

(10) 亀岡市

亀岡市は、1998年6月に市長が認証取得宣言し、2000年7月26日に認証取得した（審査登録機関は、社団法人日本能率協会：JMAQA）。2000年度当初予算で、ISO14001認証取得に係わる経費は5,202,000円（コンサルタントの委託料約200万円）となっている。同市の環境方針では、「環境優先都市亀岡」の実現を目指して、 環境を優先したまちづくりの推進 法令遵守と汚染の防止 市役所における省エネルギー・省資源・リサイクルの推進 職員の環境意識の向上 市民提案の積極的活用 環境方針の公表、を図るとされている（亀岡市のISO14001関連内部資料参照）。

(11) 尼崎市

尼崎市は、2000年2月に市長が認証取得宣言し、2000年9月27日に認証取得した（審査登録機関は㈱日本環境認証機構：JACO）。同市の認証取得に係わる経費は約370万円（審査登録費は約160万円）とされる。2000年度における経費削減効果について、「本庁舎においてISO14001環境マネジメントシステムの実施した結果、電気、ガス、上水、ガソリンの代金は約9,700万円となり、基準年度と比較すると約1,000万円（約10%）の減」になったとされる。同市の環境方針では、「さわやかな環境を創造するまちづくり」の実現を目指すとしている（尼崎市のISO14001関連内部資料参照）。

(12) 西宮市

西宮市は、1999年11月に市長が認証取得を指示し、2001年3月22日に認証取得した（審査登録機関は日本検査キューエイ㈱：JICQA）。認証取得に要した経費としては、平成12年度予算額でコンサルタント（川崎テクノロジー）委託料3,500,000円、審査登録料2,500,000円とされている。同市におけるISO14001認証取得の意義として、 環境負荷の低い自治体組織の実現 効率的な行政運営の実現 環境先進都市としてのアピール 職員の環境保全意識の向上、を挙げている。同市の環境方針では、「自然の恵みとにぎわいを未来につなぐまち」を目指すとしている（西宮市のISO14001関連内部資料参照）。

(13)相生市

相生市は、1999年3月に取得宣言し、2001年1月26日に認証取得した(審査登録機関は日本規格協会:JSA)。認証取得に係わる経費は、平成10~12年度予算総額で3,581,458円(審査登録料2,054,800円を含む)となっており、平成13年度維持審査料は790,650円とされている。同市の環境方針では、「海がきらめく夢と希望あふれるまち—夢かなう対話のあるまち・相生市—」を目指している(相生市のISO14001関連内部資料参照)。

(14)玉野市

玉野市は、2000年4月3日に、市長が認証取得宣言し、同年12月22日に認証を取得した(審査登録機関は高圧ガス保安協会:KHK)。認証取得に係わる経費(予算)としては、コンサルタント委託料5,700,000円(2社によるコンペ方式で株式会社ぎょうせいに決定)、審査登録料1,993,000円(2社による競争入札で決定)となっている。事業所としての市役所の取組みとして、省エネルギー対策 省資源・廃棄物抑制対策 グリーン購入 リサイクル推進、が挙げられている。同市の環境方針では、基本方針として 環境施策への積極的配慮 資源・エネルギーの節減 廃棄物の削減 法令等の遵守 システムの継続的改善 職員への周知 環境方針の公開、を図るとしている(玉野市のISO14001関連内部資料参照)。

(15)倉敷市

倉敷市は、1999年3月に、市長が議会で認証取得への取組みを答弁し、2001年2月22日に認証取得した(審査登録機関は日本検査キューエイ㈱:JICQA)。認証取得に係わる経費は約800万円で、コンサルタント(川鉄テクノリサーチ)委託料6,221,000円、審査登録料(入札により決定)1,460,000円等とされている。同市の取組みの動機として 職員各自の環境意識の改革 市役所自体の環境負荷の低減 市民・事業者の環境配慮の促進、が挙げられている。認証取得への取組みを振り返って、良かった点として、「ワーキンググループのメンバーが、審査が近づくにつれて意欲的になってきて、所管部署への徹底を自主的に図った」こと等、反省点として「環境管理文書について、審査を意識して規格どおりの文言を引用したため、慣れない用語が多すぎて、読みにくい文書となっている」こと等を挙げている。同市の環境方針では、「自然と人とが共生し歴史と文化の薫る健全で恵み豊かな環境」づくりを推進し、「住み続けたいまち、倉敷」の実現をめざすとしている(倉敷市のISO14001関連内部資料参照)。

その他、大阪府庁、岡山県庁、和歌山県庁、(長野県)丸子町役場などを調査して回ったが、紙数の制約上、それらに関しては省略させていただく。2001年7月31日現在で、ISO14001審査登録を完了した自治体組織は233機関にのぼる(うち都道府県・市町村単位では153自治体)。今回調査できなかった自治体も含めて、他の機会に取りあげたいと思っている。

地方自治体におけるISO14001の導入に関する問題点や課題については、別稿（石井、2000C、2000G、2001B）で取りあげているので、ここでは立入らない。なおISO等の環境監査や環境マネジメントの国際的動向に関しては、別稿（石井、2000B、2001C）を参照していただきたい。

2 地方自治体における家庭版ISO

(1) 会津若松市の家庭版環境ISO

会津若松市では、2001年5月31日に「会津若松市家庭版環境ISO認定制度実施要綱」を定めている。その目的は、「各家庭において、環境負荷低減のための行動を継続的に実践し、環境にやさしいライフスタイルを構築するため、会津若松市家庭版環境ISOを創設し、市民の環境意識の高揚を図ること」とされている。会津若松市家庭版環境ISOとは、各家庭において環境にやさしいライフスタイルづくりに向け、役割を分担して取り組み、行動を記録し、また定期的に役割分担、行動及び記録を見直すシステムを構築することをいう。

家庭版環境ISOの認定を受けようとする家族は、認定申請書で市長に申請する。認定審査は、宣言から3ヶ月後に会津若松市環境管理事務局が実施する。審査項目は、(1)環境にやさしいライフスタイルづくりに関する行動の宣言に関すること (2)行動の役割分担に関すること (3)行動の記録及び保管に関すること (4)行動、役割分担及び記録の見直しに関することで、審査は審査チェックリストにより実施される。

市長は、認定審査で適合又は条件付き適合と判断された家庭に対して、家庭版環境ISO認定登録証を交付する。認定登録証の有効期限は、認定の日から3年とされる。事務局は、認定登録証の交付を受けた家庭に対し、年1回定期審査を行う。市長は、認定を受けた家庭が審査基準から大きく逸脱したときは、認定を取り消すことができるとしている。

上記のような家庭版環境ISOの取り組みをすることで、「電気代や水道代などのコスト削減やごみ減量への貢献：環境負荷低減のための貢献、環境意識の向上、花木の植栽などによる美しい街づくりの推進など」の効果があるという。家庭版ISOの全体的なイメージとしては、環境にやさしいライフスタイルを目指して、(P)宣言（取り組む行動目標を決める）—(D)行動（行動目標を行う）—(C)記録（行動の結果がわかるように記録する）—(A)見直し（記録を見て新たな行動をとる）というPDCAサイクルを実践することとされる。

目標設定・宣言に関しては、省エネ、省資源、リサイクル、汚染関係、悪臭、騒音、環境保全などに関するもので、取り組む内容を自由に決めて宣言する。その際の行動項目は5個以上で、市が例示する39項目から選んでもよいし独自のものを設定しても良いとされている。具体的な行動項目例として、ごみの排出の際には、市が行っている分別収集に従って適正に排出します/生ごみの自

家処理やリサイクル等を行い、ごみの減量をめざします/テレビやビデオなどを使用しない時は、主電源を切るようにします/歯磨きの際には、水の出しばなしはしません/食器や鍋などの油やしょう油の汚れは、紙などでふき取ってから洗うようにします/自動車を使用する際には、不必要なアイドリングや急発進、急加速は行わないなど環境にやさしい運転に心がけます/などが列挙されている。会津若松市の家庭版環境ISOは、市内在住者であれば、だれでも参加できるとして、2001年度は300世帯を対象にしているとのことである(会津若松市の家庭版環境ISO関連内部資料参照)。

(2) 平塚市のファミリー環境ISO

平塚市は、2000年2月に本庁舎を中心にISO14001の認証を取得したが、その後、市独自に「家庭版」と「学校版」の環境規格をつくり、まちぐるみで「環境共生都市」をめざすとしている。2001年4月からスタートの「家庭版環境ISO」は、「ファミリー環境ISO」と称し、「平塚市環境行動計画」の市民編に明示された、エネルギー節減等に関するチャレンジメニューを、実行に移すための手段としている。

ファミリー環境ISOの仕組みは、次の順序で、家族みんなで続けて取り組むことからなっている。チャレンジ宣言をする 役割分担・メニューを決定する チャレンジメニューを実行する チャレンジメニュー・チェックシートに記録する。数量チェックシートに記録する チャレンジ結果の見直しをする。そして6ヶ月間取り組んだら、環境に心づかいをした家庭「環境ファミリー」として認定審査の申し込みができる→取り組みに努力が認められる家庭には市長名で環境ファミリーの認定証を交付する→一度だめでも何度でもチャレンジできる→認定された「環境ファミリー」は、さらにレベルアップしながら継続的改善に取り組む。

具体的な行動として、市が例示した「チャレンジメニュー一覧」から、印(是非取り組みましょう)を5個以上選び、合計で10個以上を選んで取り組む(一覧にないメニューを家族で考えてチャレンジしても良い)。チャレンジメニュー一覧には、(1)エネルギーを上手に使う (2)資源をせつやくし、ごみを減らそう (3)みずをよごさず、うまく使う (4)ちいき活動に参加しよう、という4つの分類で、計118項目の例示がされている。そして、チャレンジメニューを決定して実行し、チェックシートに記録して、6ヶ月後に監査係の家族のメンバーが、気づいたことなどを記入するようになっている(平塚市「家族でチャレンジ!ファミリー環境ISO」参照)。

(3) 草津市の環境家族(家庭版ISO)

草津市役所では、ISO14001の認証取得に先立って、環境家族(家庭版ISO)の取組みをス

タートさせた。それは、ISO14001の概念を応用して、家庭向けに草津市が独自でつくったものである。具体的には、家庭単位で、草津市在住者による「環境家族」参加申し込み→環境に配慮した行動項目を決め→実行し→それを記録し→その結果を見直し、さらに新たな行動項目を立てて、家族で環境に配慮した生活を続けていくものとされる。その後、「認定」の申し込み→認定という流れになる。

家庭で環境に配慮した生活の取組みとして、(1)資源を節約して、ごみを減らそう (2)琵琶湖を思い、水を大切にしよう (3)エネルギーをうまく使おう (4)自然を愛し自然を守ろう、という構成で127項目を例示している。これらの行動項目の中から、自分たち家族が取り組みたい項目を5つ以上選ぶ(例示以外の取組みでもよい)。例えば、買い物袋を持って買い物に行く/米のとぎ汁は庭木の水やりなどに使う/エアコンの温度は省エネ温度にする/お風呂には続けて入るようにする/自転車や公共交通機関をできるだけ利用する等のように、行動項目を決め、役割分担を決め、行動項目を実行し、実行結果を記録し、記録の結果をみて見直す、という前述のPDCAサイクルでチャレンジすることになる。同市の環境家族(家庭版ISO)に対しては、2001年9月現在で、172世帯が取り組んでいるとのことである(草津市の家庭版ISO関連内部資料参照)。

(4) 江市の「わが家の環境ISO」

江市は、2000年4月1日に「わが家の環境ISOに関する要綱」を定めている。その目的は、「各家庭において、環境にやさしいライフスタイルを考えながら環境負荷低減のための行動を継続的に実践し、その環境保全・改善行動の中にISO14001の概念を取り入れることにより、市民生活の中にPlan, Do, Check, Actionの輪を展開すること」にある。わが家の環境ISOに対する要求事項は、次のとおりとされる。(1)家族で、行動目標を5項目選定し、当該項目について行動の継続的实践を宣言する (2)選定した行動に対し、項目ごとに家族の中で役割と責任を明確にする (3)選定した行動を宣言どおり実践する (4)実践した行動の成果がわかるようにその結果を記録する (5)行動の結果が宣言どおり実践されていないときは、是正措置を行う (6)行動結果の記録をもとに、1年に1回見直しを行う。

環境改善行動を宣言し実践を開始した家族は、実践開始後おおむね3ヶ月後に認証審査を受け、市長は要求事項が満足されていることが確認された家族に対し、認定証を交付する。認証の有効期間は、環境改善行動の宣言開始後3年間とされ、認証の有効期間が満了した場合は、再度認証を受けるものとする。わが家の環境ISOは、1年に1回定期審査を受け、定期審査において要求事項に不適合があると指摘された場合は、速やかに是正措置を講じなければならない。認証審査および定期審査は、「わが家の環境ISO審査グループ」が実施し、市長は、認証の有効期間が満了した

わが家の環境ISOを、エコマネージャーに認定する。

わが家の環境ISOの取組みとして、江市環境基本計画に基づく環境配慮指針の中に定められている「市民の行動目標」(全55項目)の中から、(1)5項目を選択し、これらの項目に対する行動の実践を宣言するとともに、(2)目標として設定した項目について、各項目ごとに家庭における役割と責任者を明確にすることがもめられる。「市民の行動目標」は1.きれいでさわやかな空気を保つために、2.ひと・緑・生き物が潤い憩う水を保つために、3.資源循環型の社会を築くために、4.地球温暖化やオゾン層破壊等を防ぐために、5.豊かな自然環境を確保するために、6.安全で健康的な生活環境を確保するために、の全55項目から構成されている。具体的には、近い場所には徒歩や自転車で行く/節電に努める/ゴミを正しく分別する/冷暖房は適温に調節する/ホテルや野鳥の観察会に参加する/空き缶、たばこのポイ捨てはやめる等から、自由に5項目を選択する。そして 宣言する 行動する 記録する 見直しをする、というPDCAサイクルで取り組むことになる。

江市の「わが家の環境ISO」は、家庭だけでなく、会社や団体などのグループを通して取り組むことができることに特徴がある。この場合、グループの代表者が、グループの市役所への提出書類の取りまとめを行うとともに、認証のための確認時においては、グループ員への活動実績の聞き取り調査をすることになる(江市の家庭版ISO関連内部資料参照)。

その他、地方自治体における「家庭版環境ISO」に関しては、上越市の「エコ市民大作戦」や水俣市の「わが家の環境ISO—環境にいい暮らしづくり」等がみられるが、紙数の制約上省略し、他の機会に取りあげることにはしたい。

以上のような地方自治体における家庭版環境ISOの取組みは、市民による環境対応のきっかけとして重要なものである。しかし、いずれ形式化やマンネリ化でその限界に直面するであろうことは想像に難くない。その限界を乗り越えるためにも、次に“私”の家庭マネジメントの実践についてみてみよう。

3 “私”の家庭マネジメント—家庭版ISOの限界を超えて—

(1) “私”の家庭マネジメントの実践

私は、昨年度、大学の「環境マネジメント」の講義(部)の前期レポートとして、1年生のみを対象に提出は任意として「私の家庭マネジメントの実践レポート」を課してみた。他を批判するのではなく、自分自身が他をサポートするよう変わることにより、家庭環境がどのように変わるかというこの実践レポートとなることを意図したものである。例えば、1.家庭を大切にするという宣言をする 2.その具体的な目標設定とそれを達成する方法を明示する 3.それをどの程度達

成したか 4. それによりどのような家庭環境の変化があったか 5. そして自分の意識がどのように変わったか、などのような構成が考えられる。やり方としては、環境ISO風にアレンジして(1)家庭マネジメントの宣言をする (2)具体的な目標設定 (3)月次計画を立てる (4)実践状況の確認をする、等のようにしてもよいし、無計画の独自のやり方で対処して学んでいくことが大切だからである。

その意味で、「私の家庭マネジメントの実践レポート」は、環境オンブズマン(石井、1996)として行う「自治体のエコチェックの方法」(石井、1997)や「企業のエコチェックの方法」(石井、2000D)とは異質のものである。後二者は、自治体や企業のエコチェックの実践を通じて、間接的に自分の意識を変えるのに役立つのに対して、前者は、直接、身近な家庭で自分の意識を変えることから出発する。それは、より大きなテーマである「私の意識マネジメントの実践」の一部を成す。つまり、それは、私と家庭のつながりだけでなく、私と学校のつながり、私と社会のつながり、私と生物とのつながり、私と地球や宇宙とのつながりなどを視野に入れて、私の意識マネジメントを実践するものである(石井、2000E)。

その際、提出されたレポートを読んで感じたことを簡単に紹介しておきたい。

(1) 全般的にほとんどの学生が、現在家の中で会話がほとんどないとしている(そして以前はもっと会話していたと思っているようだった)。そこで多くの学生は、まず、家庭を大切にする、明るい家庭をつくるなどの環境宣言をする、次いで、おはよう、ただいま、などのあいさつや、後片付けなどの目標を立てる、そして、それを実践してみた結果、自分の意識がどのように変わったかについて述べている。

(2) 最初はなかなか恥ずかしくて、「おはよう」とか「ただいま」とか「お帰りなさい」と言えなかったようだ。勇気を出して、「おはよう」とか声をかけると(お母さんから「どうしたの?」と言われる者もいたようだ)二、三日位して馴れてきて、一週間位すると、逆にあいさつしないほうが恥ずかしいと感じるようになったという。自分が両親とあいさつするようになると、自分の兄弟たちも真似をするようになり、家庭が和やかになったとか、自分が食事の後、皿洗いをしていると、お父さんまでが手伝うようになったとか、自分と家族だけでなく、父親と母親、父親と姉という具合に自分をぬきにしても家の中で会話が增えたり、家の中が明るく楽しくなったと感じているようだ。学生たちは「いただきます」とか「ごちそうさま」と言うだけで、食事がおいしくなったり、ちょっとしたあいさつから、ジョークが出たり、互いに日々の報告をしたりして、こんなに家の中が変わって本当に驚いたと書いている。

(3) その結果、学生たちは、いつも食事をつくってくれる母親に対して感謝の気持ちがこみあ

げてきたり、誰のおかげで学ばせてもらっているか考えさせられたという。また今まで、家族を結ぶ絆である思いやりの気持ちが欠乏していたことがわかり、家族でコミュニケーションをとることの大切さを痛感したようである。さらに、自分が変わることが大切だとわかり、“今を生きる”自分の生き方を考えていきたいとしている。そして、自分の意識の変化が家庭マネジメントに、さらに社会や地球のマネジメント(北原・石井1993;石井,1995)につながっていくことが納得させられたというものもいた(その他両親がペルーの日系三世でとても明るい家庭に育っている学生が、「どこの家庭にも、家族の愛という自然治癒力があると思う」と述べていたことに、感心したことを付言しておきたい)。

複雑系の考えでは、北京で蝶々が羽ばたけば、アメリカでハリケーンが起これるとともに論じられている。それならば、私のいう神秘系の考えで、“私”の意識が変われば、家庭が変わり、日本や地球の意識が変わるといっても、何も不思議ではないだろう。いずれにしても、大学では全人的な教育が求められている現在、家庭マネジメントの実践レポートでは、学生たちを通じて、これほど大きな変化があったことを私も学ばせてもらった(石井,2000、F)。

そこで次に、「環境マネジメント」の講義を受講している学生全員に、後期試験の採点に $+ \alpha$ として加点するが、提出は任意として、「私の家庭マネジメントの実践レポート」を課してみた。たくさんレポートが提出され、それらを読むと、やはり私の家庭マネジメントの実践が、学生たちの意識に大きなインパクトを与えたことが窺えた。そこで、以下にその一端を紹介しておこう。

提出されたレポートを見る限り、ほとんどの学生が、家庭内でコミュニケーションが取れていないという現実が浮彫りになった。朝の挨拶から、ただいま、ごちそうさま、ありがとう、などの基本的な会話がほとんどなされていないという状況では、家庭の空洞化が予想以上に進んでおり、事態は深刻と受け止めざるを得ない。連日マスコミで家庭崩壊に係わる事件が報道されているが、それらの事件は決して特殊なものとかたづけられるわけにはいかない。私たちの身の回りの普通の家庭から、いつそのような事件が起きるかわからないほど、家庭の異常が蔓延しているのではないだろうか。

私を変えることによって家庭マネジメントに取り組むという、レポートの趣旨を理解して実践した学生の多くは、自分が変わることにより家庭内の状況が大きく変わっていったことに驚きを感じている。自分が「ただいま」とあいさつしたり、「ありがとう」と言ったり、家事の手伝いをしたりするだけで、両親や兄弟、姉妹などに影響し、家族のメンバーが互いに他をサポートするように家庭の雰囲気が変わっていくことを体で感じたようである。

「私の家庭マネジメントの実践レポート」からは、次のことも読みとれる。確かに学生たちは家庭内でほとんどコミュニケーションがとれていないため、両親との間でも、ほとんど話をしなかつ

たり、時には口論になることもあるという。しかし、多くの学生たちは、両親に対して、それほど敵意を持っているわけではないという現実があることには注目したい。ある学生のレポートに記されていたように、中学や高校の反抗期以来、何となく両親と会話しなくなってコミュニケーションがとれなくなり、それが、日常化してしまったというケースが多いように見受けられる。

学生たちの話では、子供の頃はもっと家庭内で楽しい会話があったのに、今は、家の中で自分の居場所がなくなっているように感じ、それで食事も家族と一緒にとらなくなり、自室に閉じこもることが生活習慣になってしまっているようである。だから、学生のなかには、大学で「私の家庭マネジメントの実践レポート」が課されたことを、よいきっかけにして、両親との関係修復に努力したいという者が幾人もいた。これは家庭の空洞化という異常な事態から脱して、家庭を癒しの方へとよみがえらせる可能性が十分あることを物語っているように思われる。

私の家庭マネジメントの実践レポートが、学生たちにとって、大きな成果をあげているのは、地球環境問題のつながりや生命のつながりへの理解という、より根本的な人間の生き方と係わって、唯一の存在としての“私”をみつめる視点を与えていることが礎にあることを見逃してはいけない。それは、私が変わらなければ何も変わらないし、“私”が変われば、みんなつながっているのだから、家族も地球も変わっていくということである。単に道德教育の一環として、家庭マネジメントの実践レポートを課したところで、成功するとは思えない。何故なら、それは同じ一つの価値観を学生たちに強制することになるからである。それは既成の大人社会の体制的な価値観を学生たちに押しつけ、学生たちの個性を無視し均質化していくことを助長しよう。

今、一番大切なことは、学生も大人も一人ひとり、今を生きる“私”を意識し、“私”がどんなにかけがえのない存在なのかを体感することのように思われる。そのための第一歩、すなわち“私”の意識マネジメントのための最初のステップが、学生による家庭マネジメントの実践レポートなのである。だから、家庭マネジメントは、“私”の意識改革の第一歩に過ぎない。しかし、それは人類が月に降り立ったと勝るとも劣らないほどの、大いなる一歩といえるかもしれない(石井、2001A)。

(2) 家庭版スーパーISO

私の家庭マネジメントを、前述した地方自治体における家庭版環境ISOとつなげるために、以下で“私”(今を生きる私、今ここにいる私)の家庭マネジメントの自己診断チェックリスト「家庭版スーパーISO」を提示したい(これに関して詳しくは〔石井、2002〕参照)。

次の4つの項目の下、10のチェック・ポイントを提示している。評価は達成度のレベルから5段階で、各チェック・ポイントの内容については、各自の判断で追加すればいいし、またその他の項

目を設けて、独自の活動を評価して加点する方法も考えられよう。あく迄、全体のイメージを素描することに主眼があるので、それほど厳密に考えないで加点していけばよい。

1 愛の宣言

(1) 愛溢れる“私”になることを宣言する

“私”が家庭で、“愛溢れる存在”になるという宣言をする。親や兄弟・姉妹を批判するのではなく、まず“私”が変わることを決心する。

2 コミュニケーションとサポート

(2) あいさつをする

「おはよう」「いただきます」「ごちそうさま」「ただいま」「おやすみなさい」「ありがとう」など、あいさつをする。あいさつは、できるだけ優しい話し方できるように心がける。

(3) 手伝いをする

食事の準備、食後の後片づけ、日用品などの買い物、部屋の掃除、窓拭き、トイレの掃除などの手伝いをする。親に過重な負担がかからないように、できるだけ手伝い、サポートするようにする。

(4) コミュニケーションをとる

食事の時は、独りで自室で食事をとったりしない。できるだけ家族と一緒に食事をとるようにする。そして食後の団らんを大切にする。身の回りの出来事を話したりしてお互いに生活状況を理解しあうように、常日頃コミュニケーションをとっておく。

3 心の平和と健康

(5) 感謝の気持ちをもつ

食事の世話や学校に行かせてくれたり、生活を支えてくれている親に感謝の気持ちをもつ。自分が普段あたり前のように生活しているが、そのためにどれだけサポートされているか気づくようにする。そうすれば自然に感謝の思いでいっぱいになるだろう。

(6) 笑顔・微笑みを絶やさないようにする

いつも笑顔と微笑みを忘れないようにする。怒ったり、不平不満を言わないように気をつける。つねに自分の心を平和に保つようにする。家族のメンバーが争っていても、どちらかにつくのではなく、対立する必要がないことに気づいて、対立を溶かす想いをもつようにする。

(7) 健康的な生活を心がける

何事もバランスをとるようにする。規則正しい生活を心がける。身体的にも精神的にも健康であるよう、心がける。ストレスが健康に一番悪い影響を与えるので、何事も前向きに受け止めるようにする。食生活に気をつけたり、環境ホルモンや電磁波の危険性にも注意する。

4 優しさと愛の実践

(8) 生命に畏敬の念を抱く

植物や虫や動物など、生き物に優しくする。ムダな殺生はしない。家の中の植物さんやペットなどにも、やさしく語りかけるようにする。

(9) 質素・儉約のライフ・スタイルを実践する

できるだけムダを省く習慣を身につける。節水・節電やゴミを減らすことに気をつける。衣食住の日常生活をシンプルにして、モノやお金などに支配されないように心がける。

(10) 愛溢れる家庭づくりを実践する

“私”が変わることによって、自分の家庭が変わり、そして親戚や近所の人に迄、愛が溢れるようにする。さらに社会とつながり、他のサポートをめざす。

“私”の家庭マネジメントの自己診断チェックリスト - 家庭版スーパーISO -

	スタート時点	チェック時点
1 愛の宣言 (1) 愛溢れる“私”になることを宣言する 2 コミュニケーションとサポート (2) あいさつをする (3) 手伝いをする (4) コミュニケーションをとる 3 心の平和と健康 (5) 感謝の気持ちをもつ (6) 笑顔・微笑みを絶やさないようにする (7) 健康的な生活を心がける 4 優しさと愛の実践 (8) 生命に畏敬の念を抱く (9) 質素・儉約のライフスタイルを実践する (10) 愛溢れる家庭づくりを実践する その他		
合計		

(評価は5段階で、5・4・3・2・1。5は全くYES、4はかなりYES、3はほどほどにYES、2は少しYES、1は全くNO)

上記の“私”の家庭マネジメントの自己診断チェックリストが、学生や市民の方々に少しでも役立つことがあればと念じている。地方自治体で家庭版環境ISOに取り組んでおられる関係者の方にも、この家庭版スーパーISOと連動させていただければ幸いである。

結びに

地方自治体におけるISO14001の導入は、増加の一途を辿っている。ISO14001の認証を取得

した各地の自治体を回って感じることは、(1)認証取得関連経費の負担がかなり重荷になっていること、そのため(2)サーベイランスや更新審査の経費負担を考えて、認証の維持を継続するかどうか検討せざるを得ない状況にあること、(3)経費を考慮して、コンサルタントへの委託が減って自力でチャレンジするケースが多くなっていること、これには(4)認証を取得した自治体が多くなっていること、それら自治体への視察などからノウハウを得ることができ、コンサルタントに委託する必要がなくなっていること、(5)認証取得時には達成感はあるものの、その後はマンネリ化しつつあること、それにより(6)更新審査で何に取り組むかに対して、全体的に意欲がわいていなく、取得を目指した当初の意気込みがなくなっていること、等々である。概して、経費負担と意識改革の問題を中心に、ISO14001に対する取り組み姿勢が揺れ動いているように見受けられる。

このような状況で、地方自治体が独自に設けた家庭版ISO、学校版ISO、企業版ISO等の取組みが広がっていることは、注目に値する。地方自治体における家庭版環境ISOの取組みは有意義なものであるとしても、いずれ限界に来て行きづまることが予想される。本稿では、その限界を乗り越えるために、“私”の家庭マネジメントや家庭版スーパーISOの実践法を提示した。今後、自治体や大学、市民や学生が力をあわせて、家庭マネジメントに取り組んでいくことが望まれる。高名なシステム哲学者のラズローも、「私たち一人ひとり、自己の中に地球的意識を生成発展させ、内なる平和を達成することにより、世界平和に貢献する一步を刻むことができる」(ラズロー、2001、18頁)と述べている。

今日の危機的な地球環境問題や世界情勢に対応するために、まさに私たち一人ひとりが、愛溢れる存在となって自らの家庭を平和と愛で満たされるよう祈念してやまない。

(注)

ISO14001の認証を取得した各地の自治体を、本年度も引き続きみて回ったが(今年は家庭版ISOに取り組んでいる自治体も含めて)とりわけ次の自治体では関連資料をいただき説明を受けるなどお世話になった。青森県庁、大館市役所、会津若松市役所、館林市役所、高崎市役所、逗子市役所、草津市役所、長野県庁、小諸市役所、丸子町役場、亀岡市役所、大阪府庁、尼崎市役所、和歌山県庁、兵庫県庁、西宮市役所、相生市役所、玉野市役所、倉敷市役所、岡山県庁等の関係者の方々には、記してお礼申し上げたい。それから以前に訪れたことのある平塚市役所、江市役所、上越市役所、水俣市役所のISO担当者の方々にも貴重な資料をお送りいただいたことに感謝申し上げる。

(なお上記の自治体の「環境方針」の骨子を資料として掲記する予定であったが、紙数の制約上割愛せざるを得なかったことを付記しておく)

参考文献 & 参考資料

- 1) 青森県庁「ISO14001の認証取得について」。
- 2) 長野県庁「豊かな環境の恵みを将来の世代へ（ISO14001環境方針）」県庁がISO14001の認証を取得しました」。
- 3) 兵庫県庁「兵庫県本庁舎のISO14001認証取得について」（平成12年10月12日記者発表資料）。
- 4) 岡山県庁「岡山県環境マネジメントシステムの“環境方針”について」平成13年4月1日。
- 5) 大館市役所「大館市の環境マネジメントシステムについて」「大館市環境方針」。
- 6) 会津若松市役所「あいづわかまつ市政だより」平成12年11月1日、平成13年6月1日；「会津若松市家庭版環境ISO認定制度実施要綱」平成13年5月31日；「家庭版環境ISO - 環境にやさしいライフスタイルづくりを始めてみませんか」。
- 7) 館林市役所「ISO14001認証取得の概要」「館林市環境マネジメントマニュアル」。
- 8) 高崎市役所「ISO14001認証取得」「環境管理マニュアル」「環境管理マニュアル（別冊）」「環境関係例規集」「高崎2000年環境会議報告書」。
- 9) 逗子市役所「環境との共生を目指して - ISO14001認証取得」「広報ずし4」（No.614）平成13年4月1日。
- 10) 小諸市役所「環境共生型都市づくりをめざして—小諸市役所ISO14001認証取得」「小諸市環境方針」。
- 11) 亀岡市役所、環境ISO関連内部資料、「環境情報紙エコロジー・ライフ」創刊号。
- 12) 尼崎市役所「尼崎市役所環境マネジメントシステム（ISO14001）」平成13年11月。
- 13) 西宮市役所「西宮市におけるISO14001認証取得事例」「西宮市は国際的な環境管理の規格であるISO14001を認証取得しました」。
- 14) 相生市役所「環境管理の国際規格ISO14001構築」。
- 15) 玉野市役所「玉野市のISO14001認証取得までの経緯等について」他。
- 16) 倉敷市役所「倉敷市環境マネジメントシステムの概要」「倉敷市環境方針」。
- 17) 丸子町役場「広報まるこ」2001年4月。
- 18) 草津市役所「今日から私たちは環境家族（家庭版ISO）—ISO・GO！—」平成13年7月、その他環境家族関連内部資料。
- 19) 平塚市役所「家族でチャレンジ！ファミリー環境ISO」平成13年3月、「平塚市の環境マネジメントシステム」平成13年11月。
- 20) 江市役所「わが家の環境ISO」関連内部資料。
- 21) 上越市役所「市民版ISO事業—エコ市民大作戦」ステップ1、平成12年度。
- 22) 水俣市役所「わが家のISO—環境にいい暮らしづくり」2001年3月。
- 23) 北原貞輔・石井薫『地球マネジメント』東海大学出版会1993年。
- 24) 石井薫『地球マネジメント入門』創成社、1995年。
- 25) 石井薫「環境オンブズマンになるための自己診断」『地球マネジメント学会通信』第12号、1996年12月。
- 26) 石井薫「自治体のエコチェックの方法」『地球マネジメント学会通信』第13号、1997年2月。
- 27) 石井薫「地方自治体における環境監査の現状と課題—ISO14000シリーズを中心に - (1)(2)」『地球マネジメント学会通信』第26号、第27号、1999年4月、6月。
- 28) 石井薫「ISOの環境監査と地方自治体—ISO14000シリーズの導入を中心として(1)(2)」『経営研究所

論集』第23号、第24号 (東洋大学)、2000年A 2月、2001年B 2月。

- 29) 石井薫「環境監査の展開—国際的動向を視野に入れて—」『経営論集』第51号 (東洋大学)、2000年B 3月。
- 30) 石井薫「I S O環境監査の現状と課題」『環境と正義』(第1回～第5回) 環境法律家連盟、2000年C 3月～7月。
- 31) 石井薫「企業のエコチェックの方法」『地球マネジメント学会通信』第32号、2000年D 4月。
- 32) 石井薫「“私”の意識マネジメント Part 2 - 21世紀の宇宙と哲学—」『地球マネジメント学会通信』第33号、2000年E 6月。
- 33) 石井薫「環境浄化と意識浄化—21世紀の宇宙と哲学—」『地球マネジメント学会通信』第34号、2000年F 8月。
- 34) 石井薫「環境監査の針路—I S Oの環境監査を超えて—」『オフィス・オートメーション』Vol. 21, No. 2000年G10月。
- 35) 石井薫「“私”の意識マネジメント Part 3 - 健康に生きるとは—」『地球マネジメント学会通信』第37号、2001年A 2月。
- 36) 石井薫「環境マネジメント論の展開—環境監査を含む海外の議論の現状を視野に入れて—」『経営論集』53号 (東洋大学)、2001年C 3月。
- 37) 石井薫「“私”の家庭マネジメントの実践法 - 家庭版スーパーI S Oの実践レポート—」『地球マネジメント学会通信』第43号、2002年2月。
- 38) アーヴィン・ラズロ「(五井平和賞受賞記念講演) 世界人類が平和であるために：重要な人間的要素」『平和の創造』No.10、2001年12月。

(2002年1月9日受理)